

ひだご坊真宗教化センターだより 2022年5月号



南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

発行日:2022(令和4)年4月28日 第21号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞
高山市鉄砲町6 Tel. 0577-32-0776 web http://hidagobo.jp takayama@higashihonganji.or.jp

ご回壇に参らまいか

【『ひだご坊』(2012年7月発行)より転載】

飛騨一円の寺院で「ご回壇」のお座が勤まる時期が来ました。今回は、ご回壇の使僧を50年にわって勤めてこられた、満成寺前住職・夏野右近さんにお話を伺いました。

【御影さま】

ご回壇は、飛騨に真宗の教えを広めた御坊の開基・嘉念坊善俊上人の行脚がもとになって、御坊が本山掛所(別院)になって始まったんや。別院輪番が飛騨の各在所へ行行って、日頃の本山、御坊への取り持ちに対する御礼を述べ、そして法座を開く。とても輪番一人では回りきれないので、わしも使いの僧として回らしてもらった。

ご回壇には嘉念坊さんや、本山のご歴代の御影さまをお連れりする。だいたい法話をするのに縁のある御影さまをお連れりするんやな。わしは第二十代の達如上人をよくお連れりした。それにはご門徒の人が御影さまをお迎えに来られたな。

ご回壇へ行くと、最近はあまり見んけど、山門から赤土を敷いて迎えてくださった。お座が始まると、本山ご門首の御消息(現在は親鸞聖人『教行信証』総序の文)を拝読する。そして、説教は高座でやるんじゃが、総代さんが前の席で羽織袴で参って、使僧が高座に上がると、「お静まるー！」って言うんや。説教が始まるで静まらなれど、さぞわしとったのが静かになつてな。

ご回壇は寺だけを回るもんやなかつた。在所の門徒の人がお迎えするんや。お座の後には席

が設けてあって、およばれして泊まる。そして、また次の在所へ歩いて向かう。車のない時代やから。白川村の小白川では滑車のついたロープに籠が下がって、それに乗って川を渡ったりした。道中は、ご門徒の人が御影さまを大事に背負って送ってくれたんや。

【ご回壇の思い出】

馬瀬は、馬瀬川の下流の西村から川上へ順に何ヶ所か回った。馬瀬に行くのは鮎の解禁日前後やったけど、最初の在所はまだ解禁日前やった。そうすると、「坊さま、次のとこ行って、あそこで鮎を食べたなんて言うなえな」と言われるもんで、「言わん」といって大きいの焼いってもらった(笑)

在所から在所へ行くのにいくら近うても「お立ち寄り」っていう休むところがあるんやさ。その家は、御影さまが寄ることを誇りに思っござる。桂林寺から蓮光寺の間に酒屋があるんやが、そこがお立ち寄りの場になつて、その大将が「御影さまが寄らっしゃる」といってお内仏を用意して待ちかねとるんや。御影さまを床の間に掛けて、お勤めすると、そこは酒屋やもんでな(笑)。白川村の馬狩の信称寺

(※現在は解散)では、時効やで言うけど、どぶろくを飲ましてもらったこともあった。そりゃ、もう美味かった(笑)。

高根村では、ご回壇は祭りのようなもんなんやな。「ご回壇踊り」っていうのがあつてな。説教しとると若い者は寺には入らずに回壇踊りに来とるわけやな。説教が長いと「坊さま、いい加減話やめんけ」と言ってきた。今はもう踊らんけど、歌は残つとるかもしれん。

【御坊さまは抛りどころ】

飛騨全体にとって、宗派を問わず、別院は「ごぼさま、ごぼさま」と親しまれてきた。丹生川のような禅宗の多い地域でも、「ごぼさま」と呼んどったでな。

ご回壇に行くのは本当に楽しみやつた。お迎えする方も楽しみに待ちうけとった。皆が集まって語り合うことのできる場所やつたでやろな。

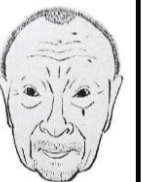
御坊さまが飛騨一円の抛りどころなんや。御坊さまが中心となつて、お寺や人々をつないでいくってことなんやな。

.....

飛騨の地で大切に勤められてきた「ご回壇」。お寺や在所で勤まるご回壇に、ぜひお参りください。

御坊へ参りやれ 帰りにや寄りやれ
後生のいわれを 語り合おう・・・ 後生
のいわれを 語り合おう・・・
ござれ 今年のご回壇に・・・
(「ご回壇踊り」の歌より)

〈語り〉夏野 右近



今回は、2012年7月発行の『ひだご坊』から、夏野右近氏の御回壇の語りを転載いたしました。

御回壇の時節に入ってきたことありますが、改めて、御回壇とは何であるのかを確かめる機会となればと考えてのことでもあります。

そして、2029年には嘉念坊善俊上人の七百五十回忌をお迎えしますが、御回壇に会うことから善俊上人にお会いし、そして親鸞聖人にもお会いしていく。まさに「流れを酌んで本源を尋める」営みになればと願つてのことでもあります。〈耳なれ雀〉

★センター・別院からのお知らせ★

※各行事は、コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

第3回企画会議報告

去る4月11日、企画会議と帰敬式法座企画会が開催されました。主な協議事項、確認事項を以下のとおり報告します。

1. 岐阜高山教区「帰敬式実践運動推進計画」の最終確認
教区の計画として整理されたものを、高山地区として最終確認。
2. 「帰敬式法座」について
帰敬式法座参加者に奨励する本山への奉仕団について提案。25日の第2回事前学習会までに、奉仕団(又は団体参拝)、各組での法座の開催期日、案内チラシ案について案を提示することを確認。
3. 全飛組門徒会研修会について
企画会議内の「組門徒会研修企画検討会」の検討を踏まえ、「全飛組門徒会研修会」を、今年9月5日に開催することが確認された。

第40回 真宗公開講座 5月開催

日時:5月25日(水) 14:00～ 主催:高山1組 真宗の会
講師:三島清圓氏(吉城組西念寺前住職) 会費:500円

第2回「是旃陀羅」問題学習会 ※申し込みが必要です

日時:5月23日(月) 13:30～16:30
講師:中山善雄氏(本山教研研究員) 講題:『観経』『観経疏』の思想的背景
※詳細については、前月号同封のご案内をご覧ください。

「帰敬式法座」に向けて第1回・第2回事前学習会を開催

2022年度からの「帰敬式法座」実施に向けた事前学習会が開催されています。

3月から5月にかけて3回の開催となり、今後帰敬式の推進を「100年教化」として、飛騨地域の真宗文化の底上げを成すための継続事業としていくべく実施されています。第1回目は四衛亮氏に、第2回目は旭野康裕氏から講義をいただき、5月19日に第3回が予定されています。

なお、3月に行われた学習会の映像については、「Youtubeチャンネルひだご坊」にアップロードしておりますので、是非ご覧ください。

第1回テーマ:帰敬式(帰依三宝)一同の同朋にもねんごろのころ
第2回テーマ:共に仏弟子となる



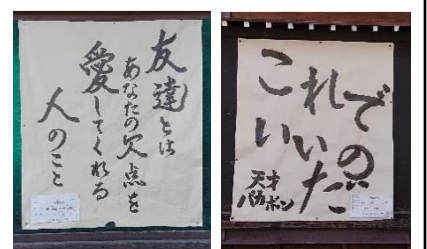
佐奈姫忌法要のご案内

日時:6月26日(日) 13:30～
会場:佐奈姫墓所・松本公民館
法話:三島多聞(別院輪番)

別院から送迎があります。現地には駐車場がありませんので、参拝される方は、午後1時までに別院までお越しください。



中高生の法語掲示



■信心が開く世界一同朋② 親鸞聖人と明法坊

明法の御坊の御往生のことを、まのあたりにききそうろうもうれしくそうろう。
 (『御消息集広本』(二)聖典563頁)

明法の御坊ですから、明法というお同行が亡くなられたという知らせを受けた。「まのあたりにききそうろう」ですから、親鸞聖人のもとに来てくださった方が、「明法坊が亡くなられました」というお話をされた。「そうだったか」と聞いて、それを非常にうれしくありがたく聞いたということです。

親鸞聖人が関東の常陸の国、現在の茨城県に住んでおられた頃のことです。山岳仏教の道場があることで有名な筑波山という山がありますが、そこには山伏もたくさんいました。そこに親鸞聖人が越後からやって来られて、念仏の教えを広められたんですね。親鸞聖人の教えをたくさんの方が聞いて心惹かれていく様子を見て、自分たちの立場が危うくなると考えた山伏が、親鸞聖人の命を折々狙うという事件がおきました。その山伏こそが弁円、つまり明法坊です。親鸞聖人を亡き者としようとした明法坊ですが、聖人と対面したことにより自分の悪しき心に気づき、共に念仏の教えに帰依する者となりました。この出来事は『御伝鈔』下巻第三段にも取り上げられています。

このお手紙の最後で、

としごろ念仏して往生をねがうしるしには、もとのあしかりしわがころをもおもいかえして、ともに同朋にもねんごろのころおわしましあわばこそ、世をいとうしるしにてもそうらわめとこそ、おぼえそうらえ。よくよく御いころえそうろうべし。
 (『御消息集広本』(二)聖典563頁)

と記されています。このお手紙の中に「同朋」という言葉が出てきますが、「同朋」というのは「ともだち」「なかま」という意味です。

親鸞聖人は、明法坊について「かつてあった自身の悪しき心を思い返して、同じく教えをいただく友人や仲間、心をこめて懇切に接して下さった」と書いておられます。自分を殺そうとした人が、一緒に教えを聞く友となってくれたことは、聖人にとってその生涯の中で大きな喜びであったに違いありません。

それは、親鸞聖人の人徳がすばらしいからということではありません。自分の意にそぐわない者に恨みを懐き、それがだんだん積もれば、相手を亡き者にしてでも自分の都合を押し通そうとする心根は明法坊だけでなく私にもある。だからこそ、自分では気がつかないこともあるし、無かったことにしがちな私の中にある罪業性を余すことなく知らせ、共に目覚めよと呼びかけ

る本願の教えと一緒に聞いて確かめていく人に明法坊がなってくれた。こういう形で一緒に教えを聞いていける友がうまれてくるのが、本願の教えの世界なんだと。親鸞聖人は、そのことを非常に大事にされ、それが聖人にとって大きな喜びとなったということです。

■信心が開く世界一同朋③ 柿洪染の衣

親鸞聖人の絵姿で有名なものに、聖人が83歳のときに描かれた「安城の御影」があります。西本願寺蔵のものは国宝にもなっています。首周りに襟巻きをしています。これは正式には帽子(もうす)といいます。この襟巻きは白ではなくてエンジ色をしています、えび茶色ですね。えび茶色の衣というのは柿洪で染めたもので、この頃の山伏が着ていた衣がこれでした。明法坊が亡くなった後、明法坊が山伏だったころ着ていたえび茶色の衣を形見として送ってきたので、親鸞聖人は、それを襟巻きに仕立て直して使っておられたということです。そういう記録がちゃんと残っています。自分を殺そうとした人と、一緒に教えを聞く友だちになれたということは大きな喜びで、明法坊のことを大事に忘れないようにと、形見として身につけておられたということです。

高山1組不遠寺住職

企画会議副座長 四衢 亮



『高山市民時報』ミニ法話「響」5月の寄稿者

- 橘 出氏 (教区駐在教導)
- 江馬雅臣氏 (益田組賢誓寺副住職)
- 岩佐幾代氏 (吉城組浄永寺坊守)
- 三島見らん氏 (吉城組西念寺住職)
- 三島多聞 (高山別院輪番)

web ひだご坊でも「一口法話」配信中!

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

別院看板を新しくしました～お内仏に台座を設置しました

安川通りからの別院入口に掲げられていた木製看板を経年劣化によりリニューアルしました。

新しく作成した看板はアルミ製にて寺内景観に配慮した色彩で、文字標記をわかりやすくしました。ご来院の際に見て下さい。なお、看板の揮毫は上野潔さんをお願い致しました。

また、別院会館研修ホールのお内仏の台座も設置することが出来ました。



飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2022年5月行事予定 ※コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会場
.5	日			
2	月			
3	火	13:00	別 三日のご坊 法話:野崎尚齊氏(西正寺住職)	本堂
4	水	7:00	別 半日華	
5	木			
6	金			
7	土			
8	日			
9	月	19:30	組 二組門徒会役員会	研修室
10	火	13:00 19:00	教 高山支部 坊守会研修会 組 益田組門徒会研修②	研修室 慈雲寺
11	水	13:00	別 大谷婦人会定例 法話:輪番	御坊会館
12	木	10:00 13:30 14:00	七 青少幼年部会 別 御回壇ご使僧会議 七 伝道部会	研修室
13	金	7:00 13:30	別 前住上人ご命日 組 二組組会	本堂 研修室
14	土			
15	日	7:00	別 半日華	
16	月	14:00	教 総合企画室	郡上教会
17	火	13:00	教 東海連区坊守会研修会 WEB	高山支所
18	水			

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会場
19	木	10:00 14:00	教 慶讃広報部会会議 WEB 教 帰敬式法座スタッフ学習会③	高山支所 研修会
20	金	13:00	教 教区門徒会協議会	岐阜高山教務所
21	土			
22	日			
23	月	13:30	七 「是旃陀羅」問題学習会(講師:中山善雄氏)	研修室
24	火	14:00	教 教区門徒戸数調査委員会 web	高山支所
25	水	14:00	七 真宗公開講座(講師:三島清圓氏)	本堂
26	木	7:00 14:00	別 半日華 教 教区財務委員会 web	高山支所
27	金	13:00	別 親鸞聖人お逮夜	本堂
28	土	13:00	別 親鸞聖人御命日 法話:畑亮徳氏(願徳寺住職)	本堂
29	日			
30	月	14:00 19:00	教 御遠忌統括本部会議 教 教化研究所	研修室 研修室
31	火	15:30	教 連区同朋の会推進交流研修会 組 一組組会	三重教務所 研修室

2022年6月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
1	水	19:00	組 益田組真宗講座	7	火	13:00	教 岐阜支部坊守会 WEB
2	木	13:30	教 解放公開学習会(訓覇氏)	8	水	13:00	七 企画会議
6	月	13:30	教 解放推進協議会 輪読会	15	水	14:00	教 御遠忌推進委員会総会